令和６年度　第２回地域福祉推進会議　議事要旨

日時：令和７年３月 10 日（月）午後２時～２時 45 分

場所：西成区役所　４階４－６・８会議室

出席者

別紙　出席者一覧表のとおり

≪区長挨拶≫

・地域福祉の推進にご協力いただいておりますことに、この場をお借りしてお礼申し上げる。

・先日、西成区で２回目のボッチャ大会が開催され、多くの方の参加をいただいき、午前中の予選会から午後から決勝まで熱戦が繰り広げられた。

・区内では、小学校や中学校の福祉教育も含め、約 50 ヵ所でボッチャが行われ、子どもも障がいのある方や高齢者も誰もが一緒にできるスポーツとして広がりをみせており、住民同士の自主的な活動が、地域活動への参加につながっていることを大変うれしく思う。

・ボッチャに限らず e スポーツも、地域活動へ参加するためのきっかけづくりや子どもたちと一緒に楽しむことができる機会として、大阪市で取り組みをすすめており、先日の認知症啓発イベントでも、認知症の方が楽しそうに参加していた。

・地域活動への参加促進を図りつつ、「気にかける」「つながる」「支え合う」ことができる地域づくりに向けて、みなさまからご意見等をいただき、関係機関と協力し、さらなる地域福祉の推進にとり組んでいきたい。

≪議案１の 「西成区の地域福祉推進に向けた今年度の取り組みの振り返りについて（案)」について事務局説明≫

第２期西成区地域福祉計画＜令和６年度活動報告（案）

資料２－２　１ページ目【重点項目１　新たな西成区の地域福祉推進体制】

・「気にかける・つながる・支えあう」地域とする為に、「かけはし」の充実に取り組んできた。

・「かけはし」とは、民生委員・児童委員や地域ネットワーク委員など地域における見守り活動を担っている方々が、SOS を発することが困難な世帯などに気づき、相談支援機関や行政などの専門職につなぐ活動をいう。

・その反対に相談支援機関から地域への「かけはし」として、社協の「見守り相談室」の見守りネットワーカーが地域に出向き、支援する場合もある。

・資料１ページ目のグラフは、数字を把握している相談先のみを記載しているが、令和元年と令和５年を比べると大幅に相談件数は増えている。

・３月３日開催のチーム会議において、委員から、なぜ資料では相談窓口を４つに絞っているのか、地域包括ブランチ・NW 委員・障がい者基幹相談センターも相談窓口ではないのかというご意見をいただき、今回の資料は代表的な窓口を挙げていること、各地域の会議にて取り組みの周知活動を行い、今後も取り組んでいくと回答した。
・さらにチーム会議において、委員から、地域の方々に対して、自分たちが「かけはし」であるという認識を持てるような活動ができているのか？課題解決や見守り活動を行えるような仕組みを地域でつくるというのが、「かけはし」本来の意味であり、引き続き取り組みを進めてほしいというご意見をいただき、民生委員などの地域の方が「かけはし」という言葉を知っているかというとなかなか難しく、地域で課題を解決できない場合は包括や区役所など、次の相談先があることを広げる活動を行っており、その役割は広がりつつあると認識しており、「かけはし」という認識と役割は、引き続き周知に努力していくと回答した。
・まとめとして、相談件数から、区役所に直接寄せられる相談件数よりもはるかに多くの相談が、区役所以外の相談窓口に寄せられていることが分かり、相談先の周知が進んでいること、多くの相談については、地域から区役所以外の相談機関で解決されていると考えられるが、その中から複合的な課題を抱える世帯については「つながる場」を開催するなど現在の取り組みを継続しみさらなる充実を図っていきたい。
・一定「かけはし」という役割が浸透されつつあるように見えるが、地域が主体となっている活動において、地域の方の取り組みが「かけはし」であるという認識の周知を、引き続き努めていきたい。

資料２－２　２ページ目【重点項目２　地域福祉活動への促進と担い手の確保】
・生活支援体制整備事業では、地域活動へ参加する新たなツールとして、「e スポーツ」や「ボッチャ」に力を入れており、通いの場への参加拡大、多世代交流を進める手段として活用し、参加者も大幅に増加している。
・「e スポーツ」は男性の参加率が高く、これまで男性の参加者が少ないとされてきた地域活動への有効な手段として今後も期待される。
・「ボッチャ」は、地域住民の自主的な活動の活発化に貢献し、ボッチャサポーター養成講座の参加者も増えている。
・「ボッチャ」の活動は区内約 50 か所で実施され、先月のボッチャ大会では、午前中に予選、午後からは本戦と多くの地域住民が参加し、熱戦が繰り広げられた。
・まとめとして、e スポーツがこれまでの懸案であった地域行事への男性参加者増に有効な手段となりつつあり、ボッチャは地域住民の自主的な活動を活発化させ、担い手であるサポーター養成講座への参加者も増加することとなった。
・今後は、参加者の多くが高齢者であることから、世代間や地域間の交流と担い手の創出を目指した「しかけづくり」を考えていきたい。

資料２－２　３ページ目【重点項目２　地域福祉活動への促進と担い手の確保】
・昨年 11 月 30 日に開催された地域福祉フォーラムでは同じ地域で生活する外国人住民とつながるには、どうすればよいかを考えた。
・「西成区在住外国人との日本語での交流とは？」、外国人に伝わる「やさしいにほんご」とはどういうものかについての講演と、日本に住む外国人５名によるパネルディスカッションでは、普段どのようなことを感じながら生活されているのかを聞いた。
・多文化共生フェスタと同日に開催したこともあり、多くの参加があった。
・アンケート結果では、外国人住人との関わりについては、世代を超えて多くの方が関心を持っており、きっかけ作りの気づきに繋がったことが分かった。
・まとめとして、外国人住民について幅広い世代が関心を持っており、次年度も引き続き、多文化共生に関する内容をテーマとした地域福祉フォーラムの開催を検討したいと考えている。

資料２－２　４ページ目【重点項目４　複合的な課題を抱えた人への支援体制の構築】
・精神保健分野・生活保護分野・障がい者分野・区内ケアマネを対象とした研修会や勉強会で、「つながる場」の周知を行った。
・専門職への研修「不登校・若者のひきこもり支援」、及び講演「すぐに役立つ支援のコツ！セルフネグレクト」を実施した。
・アンケート結果では、「不登校ひきこもり支援の考え方や認識が変わった」「いわゆるごみ屋敷を片付けることがゴールではない」等、専門職からも研修の有効性は高く評価されている。
・今年度の「つながる場」は、昨年 10 月現在、相談件数が 19 件、内「つながる場」の開催されたものが５件となっており、内２件は、町会関係者や地域住民が会議に参加し、区役所・各相談支援機関・地域関係者が集まっての開催ができた。
・相談件数は、ここ５年間で倍増しており、事案は、初期の高齢者問題中心から障がい者、子ども、多頭飼育、セルフネグレクト問題と範囲が広がってきている。
・３月３日開催のチーム会議において、委員から、「つながる場」の相談件数、開催件数のうち地域から挙がってきた相談はどれだけあるのか。また、地域の課題はできるだけ地域の中で解決してもらい、地域では解決が難しいものは「つながる場」に相談が来るよう、わかりやすく、更なる周知が必要である。というご意見をいただき、今年度の実績については、見守り相談室やケアマネを起点に包括から連絡があったもので、障がい相談員や直接連絡があったもの、消防署からの相談も含まれていると回答した。
・まとめとして、相談の多い身近な事案に対しての研修は高い満足度となっているが、一つ一つのケースの解決には時間がかかっている。支援者の知識の向上、複数関係機関との連携、地域への更なる周知を行うこと、区役所職員や関係者の気づきの感度を上げることで、援助を必要とする方をより早く発見し、適切な支援に繋げられるように取り組んでいく。

資料２－２　５ページ目【重点項目３　要援護者の発見と地域における見守り体制の強化】
【重点項目５　地域の生活課題の解決や自分達の住む地域を考える場づくり支援】
・個別避難計画の作成は、介護事業者（ケアマネジャー）の協力を仰ぎながら、現在要介護５の世帯で在宅・単身の方を優先的に令和４年度から取り組みを開始し、現在 227 件作成している。
・「西成つながり名簿」は、今年度、全 16 地域に更新した名簿を提供するとともに、各地域から取り組み状況等を聞くなど今後の活用方法等について話し合いを行った。
・防災支援アドバイザーとの意見交換を通じて、今後の名簿の有効な活用方法を探っている。

３月３日開催のチーム会議において、西成区で個別避難計画の必要数と、現在の作成割合についての質問や計画が実行性のあるものなのかといった質問があり、西成区における個別避難計画の対象者は約１万人であり、現在の作成割合は約２％弱であること、計画が実行性のあるものかについては、現状では正直難しい状況であると認識している、また、引き続き、支援者を増やしていける取り組みをすすめていきたいと回答した。
・まとめとして、個別避難計画作成は、介護事業所の協力を得ながら現在の取り組みを継続し、連携を続けていく。
・名簿の活用は、連携協定を新たな地域団体と締結する等、名簿に対する地域の関心と連携を深めていく。

資料２－２　６ページ目
・地域の取り組み状況の紹介については資料のとおり。

≪坂本委員からのご意見≫
資料２－２　６ページ目について
・資料に記載のある地域以外の状況は把握しているのか。
・見守り活動について、現状、地域の中で情報の共有ができていないため、南津守だけでも良いため地域の中での情報を共有してうえで、うまく見守り活動に活用できるように取り組んでもらいたい。

≪事務局≫
・資料の記載されていない地域は特に地域の中で名簿を活用して何かするといった課題などは今のところ醸成されていない状況となっている。
・これからも更新した名簿を渡す際には、名簿の活用に向け意見を聴くなど、一緒に考えていきたい。
・地域内の情報共有については取り組み方法などについて検討していく。

≪西前委員からのご意見）
・名簿の活用については地域によって温度差があると認識しており、本当に活用できているのは、各町会が動いている地域であると考えている。
・自分の携わっている町会では、全町会員に自分で作った見守り名簿を配り、緊急の連絡先などを任意で記載してもらっているが、日々更新しなければ、数年たてば役に立たなくなる。
・名簿は、昔から個人情報を重要視しすぎ、本来の役目を果たしていない気がする。
・高齢者がどんどん増えており、単位が広がると連絡が上手くいかず、一部の人だけが動いているという形になり、全体になかなか浸透していかないというのが現状である。
・防災訓練にくるのは元気な人ばかりであり、いざとなったときに本来避難が必要な方はどこに避難すればよいかわからない。
・名簿の提供について、要望があれば、各町会と協定を結ぶといったことは検討しているか。

≪事務局≫
・ひとつの町会であっても、名簿を活用して見守り活動をしたいということであれば、その方向について検討したい。

≪議題２の「令和７年度の西成区福祉推進スケジュール（案）」について事務局説明≫
資料２－３
・令和６年度は地域福祉フォーラムの開催予定を当初１月としていたが、11 月開催の多文化共生フェスタと共同での開催とした。
・地域福祉フォーラムの「同じ地域で生活する外国人住民とつながる」というテーマと多文化共生フェスタのテーマが共通していることや、外国人住民との関わりに関心が高かったことから、参加者増が見込めるもの判断したもの。
・令和７年度も、多文化共生に関する内容をテーマとして、今年度と同様の時期に共同開催したいと考えている。
・当初送付資料では、区政会議の開催月が 10 月となっていたが、正しくは９月であり、それに伴い地域福祉推進会議の開催時期も若干修正している。

≪参考資料「令和５年度の西成区地域推進会議から福祉局への意見」についての事務局説明≫
・提出元の各部会（「西成区地域ケア推進会議」「西成区障がい者自立生活支援調整協議会」「西成区児童虐待防止・子育て支援連絡会議」）に既に提供し、回答内容を踏まえ、各部会内で次年度の意見としてどう反映させるかを考えていく。

≪議案３の「生活支援体制整備事業の取り組みについて」の事務局説明≫

資料３－１・２

・今年度は新しく 14 件の通いの場が立ち上がり、立ち上げ支援には包括圏域毎に配置している第２層生活支援コーディネーターを中心に取り組みを行った。

・社会貢献の一環で、通いの場への参加を希望する企業等ともつながることができた。

・今年度は「ボッチャ」と「e スポーツ」の活動を重点的に行い、第２期地域福祉計画の重点項目２であるボッチャ活動は、２月 18 日に区内でボッチャ活動をしている団体を対象に「第２回ジャガピー杯ボッチャ大会」を開催し、計 36 チームのエントリー、約 230 名の参加があった。

・優勝した千本連合チームは、第１回大会の参加をきっかけに今年度からボッチャ活動を始めている地域であり、他の団体も大会優勝に向けて普段より集まる頻度を上げて練習をする等、ボッチャ活動を拡げた理由の１つである「介護予防」という目標が達成できたと考えている。

・ボッチャ活動をさらに盛り上げるために、１月 29 日には「ボッチャサポーター養成講座」を開催した。

・１月 31 日と２月７日には西成区老人クラブ連合会と共催で、「ボッチャ体験会」を開催した。

・e スポーツについては、今年度は体験会を中心に取り組みを進め、e スポーツに対する認知度の向上、満足度の確認、e スポーツへの親しみを持つための方法を確認した。

・９月から月に１回、老人福祉センターで体験日を実施し、ほっと！ネット西成ひろばでのブース設営を通して e スポーツに触れる機会を作った。

・先のチーム会議において、ほっと！ネット西成ひろばにデイサービスの利用者が e スポーツに参加しすごく楽しそうにしていたことや、e スポーツは難しいイメージがあったが、デイの利用者の普段見たことがない姿が見ることができるなど新鮮な感じだったと、大変うれしい意見もいただいた。

・当事者が気軽に参加でき、将来的にはオンラインで一つの場所に集まらなくても同じものを楽しめる環境を作り、会場まで足を運べない方など誰もが参加できる、一つのツールになればと思っている。